

# 環境に配慮した活動に 主体的・積極的に取り組む児童の育成 —算数科と学級活動の時間での実践を通して—

環境教育班 蓼沼 聡(小学校教諭)

## 研究の概要

- 本研究は、算数科と学級活動を関連させてどのような環境教育が実践できるのかを試みたものである。
- 具体的には、ペットボトルキャップ回収活動を題材に、算数の時間でグラフ作成や小数のわり算等を通して回収量について分析を行い、学級活動での話し合いにより身近な環境問題に関心をもち、主体的に行動できる児童を育成することを目指した。

### 見通し①

算数科において、小数のわり算などを活用してペットボトル回収活動についての分析を行えば、数値を基に環境について考えを深めることができるだろう。

#### 表やグラフを読む活動

ペットボトルキャップ回収量を表やグラフに表す。回収活動開始からの回収量の傾向を読み取る。

#### わり算活動

本校児童一人当たりの平均回収量を算出する。

#### かけ算活動

全児童が回収活動に参加することを想定し、回収量を算出する。

#### 文章でまとめる活動

今回の算数的活動を通し分かったことを文章で記述する。

### 目指す姿

環境に対する取組の本来の意義に気づき、環境に配慮した活動に主体的・積極的に取り組む児童



### 見通し②

学級活動の時間において、算数科で分析したことを基に話し合い活動を行えば、ペットボトルキャップ回収活動の大切さに気づきながら本来の意義も認識し、環境に配慮した活動に主体的・積極的に取り組めるだろう。

#### 話し合う活動

「ペットボトルキャップ回収量を増大させるために、ペットボトルを積極的に消費するべきか」をテーマにして話し合い活動を行う。

### 児童の実態

#### <実態>

- 身の回りに落ちているごみを拾う児童が少ない。
- 児童全員がペットボトルキャップ回収活動に参加していない。

#### <課題>

- 本来の意義を理解していない。
- 主体的な活動になっていない。

### 成果

#### (1) 学習活動での成果

本研究を通して児童の変容を捉えたところ、学習時の記述内容からは児童全体に意識の向上が見られた。今回の実践では、特に抽出児童Aの段階の児童において、環境への配慮が伺える意見を見取ることができた。

#### (2) 学習後の行動上の成果

児童の意識は実践中に高まり、1ヶ月後には元に戻っていたと考えられるが、保護者アンケートから環境に配慮した行動は身に付いていたことが分かった。児童は全体的に意識が高まり、自分の判断基準が以前より高まったのではないかと。

表 抽出児童によるまとめの記述の比較【最初(ア)→算数的活動→中間(イ)→話し合い活動→最後(ウ)】

	(ア)抽出児童の最初のまとめ 「ペットボトルキャップの回収個数を表やグラフに表して気付いたことをまとめよう」	(イ)抽出児童の中間のまとめ 「これからあなたは、どのように活動しますか」	(ウ)抽出児童の最後のまとめ 「これからあなたは、どのように活動しますか」
抽出児童A	一人が1個持つだけで、全校で206個も集まるんですねすごいです。	ペットボトルキャップを捨てないで、学校やスーパーの回収ボックスに入れてリサイクルしたいと思う。	ペットボトルやキャップを無駄にしないように、リサイクルしたり、できるなら、ペットボトルを使わないようにしたりして、余分な二酸化炭素が出ないようにしたいです。
抽出児童B	1ヶ月間に10個位なら持ってこれるけれど、30個は無理だと思いました。	家にペットボトルキャップがあったら持ってきたと思う。	道に落ちていたペットボトルキャップがあれば、拾って回収ボックスに入れるようにします。
抽出児童C	たくさん集まってすごいです。	これからリサイクルしたいと思う。	回収活動に協力できる時には協力します。

### 児童の課題

#### (1) 単元構想上の課題

時間の確保が難しいときには、児童の考えがまとまらずに授業が終わってしまうことが考えられる。必要に応じて、児童の考えを記録しておくことが重要である。

#### (2) 授業展開上の課題

話し合い活動には、自分の考えを相手に伝えるように表現する力が必要である。この点については、日ごろから経験を積ませることが重要である。

#### (3) 他教科との関連上の課題

環境教育は、あらゆる場面での実践が求められる。算数科や学級活動だけでなく、他の場面での取組について研究し、環境教育の充実に努めたい。

#### 保護者から見た変容

